



震災から何を学ぶか～震災講話①～

2月19日（水）、一関市教育研究所の渡邊先生をお招きして「震災講話」を実施いたしました。

東日本大震災が起こってから、まもなく14年が経とうとしています。本校の生徒もそうですが、この未曾有の大災害を覚えていなかったり、まだ生まれていなかったりする世代が増え、記憶の風化によって防災意識が失われていくことが危惧されています。

今回の講話では、津波の被害や避難のときの様子、復興の苦労、それらを多くの写真資料を交えてお話しいただきました。目を背けたくくなるような恐ろしい被害の様子もありましたが、渡邊先生がご勤務されていた陸前高田市や山田町子どもたちが、地域の方々とともに、復興に向けて立ち上がっていく様子も紹介されました。またいざという時のために、家に備えたり、日頃から取り組んだりしておくべきことを、チェック項目に従って確認する作業なども行いました。

講話の最後には、家を出る時に「行ってきます」と笑顔で家族に伝えることの大切さについても話されました。一見あたり前のような日頃の営みが、とても貴重なものであることが改めて感じられました。

3月10日には震災講話の今年度の第2回目として、自衛隊の方々を講師にお招きして、さらに防災の具体的な方法について学ぶ予定です。



生徒の感想より

- ・ お話を聞いて、一番心に響いたことは『行ってきます』を笑顔で明るく伝えることだ。それを聞いて、「あっ…言っていなかったかも」と思ってしまった。
- ・ 講話を聞いて、当時の被害を詳しく知ることができました。普段から想像力を高めることと、「行ってきます。」を笑顔で言うことを実行したいと思いました。
- ・ （避難時に必要な）物品があることは知っていても、場所までは知らなかったのので、家族に確認するようにしたい。

地域に元気を、地域から元気を！

2月15日（土）、女子バレーボール部（来年度、地域クラブ「BLAISE 一関」に移行予定）が活動資金に充てるために行った廃品回収の益金の一部を、こども食堂などの事業を運営する団体「いってみっぺし藤沢」に寄付しました。

地域に貢献し、地域に支えられ、応援される、すばらしいチームになってほしいと思います。もちろん、学校も応援します。

寄付

■子どもの居場所づくり事業へー藤沢・BLAISE一関

一関市藤沢町の中学生によるバレーボールクラブチーム・BLAISE一関が、15日、地域貢献として同町で子どもの居場所づくり推進事業「いってみっぺし藤沢」(菅原三司会長)に2万円を寄付した。

チームは2024年7月に結成し、現在は同町内を中心に1年生女子10人が所属。学校部活動の地域移行に伴い、25年度からは藤沢中の女子バレー部に替わる予定。運営資金の一部には生徒の家庭に呼び掛けて行っている空き缶の廃品回収の益金を充てており、寄付にはこの資金を活用した。

同日はチーム関係者や、同町の藤沢スポーツプラザで開かれた同事業の子ども

菅原会長(左)に寄付金を手渡す三浦主将

食事を兼ねた昼食の時間に合せて訪問。三浦愛鈴主将(藤沢中)が「自分たちも地域のために役に立ちたい。少額だが役立ててほしい」と述べ、菅原会長に寄付金を手渡した。

水まわりの
上下水道・浄化槽工事
株式会社 小野寺
0191-26-3
〒021-0002
一関市山目字寺
台所・風呂・トイレのリフォーム

相手の気持ちになって考える

～1年生キャップハンディ体験～



2月26日(水)、1年生を対象に、一関市社会福祉協議会の皆さんを講師にお招きして、キャップハンディ体験を行いました。体験を通して、障がいのある方や高齢者の抱える問題や課題について理解を深めるとともに、多様な社会の中で、相手を理解して違いを受け入れ、尊重する姿勢を身につけることをねらいとしています。

車いすの体験では、車いすを操作してコーンをよけたり、介助する人と一緒に段差を越えたり活動を行いました。車いすの操作は皆短時間で上手になりましたが、段差を越えるのは大変です。たった5cmほどの段差でも、車いすを利用している方には大きな障害であることを実感できました。また高齢者疑似体験では、関節を曲がりづらくするサポーターやウェイト、さらに白内障体験グラスや聞こえが悪くなるヘッドギアをつけて廊下や階段を歩き、その不自由さを体験しました。

一方、講話では、障がいの有無に関わらず、誰でも一生懸命に頑張っていることを認め合い、自分に何ができるのか、相手の気持ちになって考えることが大切であると学びました。生徒たちが多様性を認め、互いに尊重し合う社会の担い手となるため、良い学びの機会となりました。

生徒の感想より

- ・ 車いすに乗ってみて、段差を上がるとき(持ち上げられて)の浮遊感が怖かったし、後ろ向きに降りるときの衝撃がけっこう響いてびっくりしました。
- ・ 足にサポーターをつけたときに、足が上がらず階段を昇ったり降りたりするのがとても大変で、私も家にひいおばあちゃんがいるのですが、辛さがよくわかりました。また耳せんをするとめちゃくちゃ聞こえにくくて大変だったので、ハキハキしゃべろうと思いました。
- ・ 将来家を建てるときがあるかも知れませんが、そのときは段差を低くするなど、この体験を生かして工夫したいです。
- ・ 社会福祉協議会の方が「福祉」とは「**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ」と言っていたように、何気ない日常が幸せだとわかりました。なので、けがや病気していない普通のときを感謝して生きようと思いました。

藤沢町いいね大賞 団体受賞

前号で紹介した、「藤沢町いいね大賞」について、団体受賞の部分が抜けていました。申し訳ありません。本校からは岩手県中総体3位のソフトテニス部男子と岩手県中総体、岩手県中学校新人大会準優勝のソフトボール部が受賞し、それぞれ小野寺瑛太さん、伊東佑麻さんが代表して賞状を頂きました。さらなる活躍を期待しています。

